

川口市立医療センター広報紙

はな みず き
花水木

特集

2019.11.1 Vol.40

基幹災害拠点病院の役割



川口市立医療センター「みみたーず」
イメージキャラクター
“よく聴き・よく診て・よく説明する”

基本理念

市民に信頼され、
安全で質の高い医療を提供します

「認知症ケアチーム」の活動

認知症は加齢とともに増加します。特に75歳を過ぎると認知症の症状が出るかたが急激に増えます。現在の日本は少子高齢化が加速しており、今後さらに認知症を患うかたが増えることが予想されます。

当センターは急性期病院ですが、認知症を有する患者さんも多く入院して治療を受けています。こうした患者さんは、入院した際に、安静が必要な状態でも歩いてどこかに行ってしまうたり、転倒したり、身体に入ったチューブ類が気になって抜こうとしたりするなど身体や命にとって危険な行動をすることがあります。その行動をスタッフがずっと見守り付き添うことが難しいため、身体をベルトで縛り、紐やミトンを使ってチューブ類を抜かれないように「身体拘束」を行い安全に配慮しています。

しかし、これらの行為は、身体機能の低下、認知症の症状悪化、精神的な苦痛や患者さんの周囲の人たちの悲嘆等が生じるだけでなく、海外では死亡例も報告されています。

認知症ケアチームは医師や看護師、臨床心理士等で構成され、身体拘束を行わなくてもいいように、チーム内で対象患者さんに関するカンファレンスと巡回を週1回行い、身体拘束の実施状況等を



確認したり認知症に関連する相談を受けたりする活動をしています。しかしながら、医療者だけでは身体拘束を外すことが難しい場面もあります。

今日の医療は患者さんとそのご家族が中心であり、医療者は手助けをしているに過ぎません。身体拘束をせずに医療を提供するためにも、患者さんにご家族もケアに参加していただき、皆で協力して治療を進めていきたいと考えます。

基幹災害拠点病院の役割

災害拠点病院とは、災害時において重篤救急患者の救命医療を行うための病院です。当センターは埼玉県内の21の災害拠点病院の中で唯一「基幹災害拠点病院」の指定を受けており、災害時には埼玉県や地域の医療機関と協力しながら、医療の最前線を担います。

災害対策訓練の実施

東日本大震災以降も、日本各地で地震や台風などの自然災害による被害が発生しています。こうした災害時には、基幹災害拠点病院は院内の入院患者、外来患者だけでなく、外部からの傷病者にも24時間体制で対応しなければなりません。

そこで、去る9月7日、当センターでは内閣府主催の大規模地震時医療活動訓練に伴う多数傷病者受入訓練、医師会連携訓練等を行いました。



診療中の午前11時にM7.3の東京湾北部地震が発災、川口市内の震度は6強、病棟のほか電気や水道等のライフライン、周辺道路等に被害発生という想定のもと、100人以上の職員が参加しての訓練となりました。

病院事業管理者を筆頭に院長、副院長、看護部長等で組織される災害対策本部の訓練では、情報収集室から報告される院内及び市内のさまざまな被害状況をもとに、病院としての確かな判断をし、指示を出すことができるかを確認しました。



また、電力や人員が制限される災害時の医療現場を想定し、多数傷病者受入訓練を実施。まず、傷病者の重症度により短時間で治療の優先順位を決めるトリアージを行い、症状別に赤・黄・緑に分けられた救護所に担架や車椅子で傷病者を搬送、救護所において医師や看護師が適切な検査及び治療を判断する訓練を行いました。次々と運び込まれる傷病者で救護所がいっぱいになる様子も見られました。



さらに、埼玉協同病院や齋藤記念病院等市内の医療機関と患者搬送を行う際の情報通信訓練を実施し、地域医療を支えるための行動を確認しました。

災害派遣医療チームDMAT

災害拠点病院には、DMAT(Disaster Medical Assistance Team)が組織されています。DMATとは、医師、看護師等で構成され、有事の際に迅速に活動できる機動性を持つ、専門的な訓練を受けた災害派遣医療チームです。当センターのDMATも、これまで多くの被災地に派遣されています。今回の訓練では、当センターに北海道や新潟、群馬等全国各地のDMAT12チームが参集、当センターを拠点に衛星通信等を活用した情報訓練、救護所での医療活動訓練、ドクターヘリ及び県警ヘリによる患者や物資の搬送訓練等を行いました。

災害はいつ起こるかわかりません。当センターは、基幹災害拠点病院として最大限の医療支援活動を行えるよう、今後も災害に備えた訓練の実施に取り組めます。



救急体制について

当センターは、救命救急センターを有し、南部医療圏で唯一、三次救急医療を担っています。中等・重篤患者への救急対応を最大の命題に「断らない医療」に注力しており、昨年度の救急車の受入件数は約6,500件でした。

こうした中、ER室の増設、診療室の改修を行うとともに、医師の診療体制を見直すなど、救急患者をスムーズに受け入れ、さらに迅速に治療に取りかけられるよう、救急体制の強化を図りました。



RI装置を更新しました

RIは「ラジオアイソトープ」の略で「核医学検査」とも呼ばれ、人体に影響のない微量の放射線を含んだ薬品を投与し、体内の放射線を検知して画像化する検査です。

今回更新したCT付きのRI装置は、RI画像とCT画像を融合させたスペクトCT撮影が行え、腫瘍や炎症部位の特定に優れています。血流や骨転移の検査を得意分野とし、脳血流・心筋血流・骨転移の検査を中心に年間約1,200件の検査を行っています。

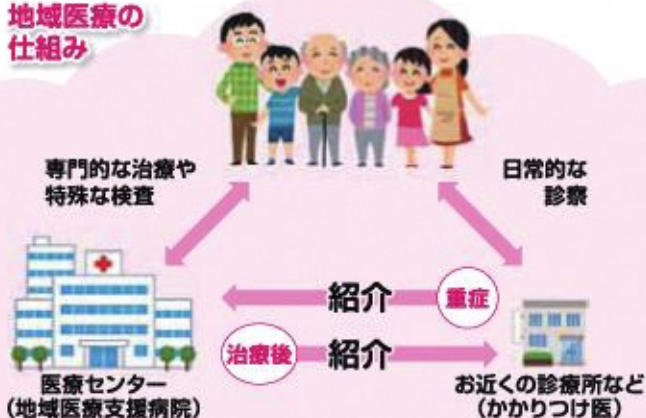
また、今回の機器導入にあわせ、パーキンソン病・心筋血流の最新解析ソフトを導入しました。これにより、データの数値化がさらに正確かつ詳細になり、解析スピードも飛躍的に上がりました。

本町診療所が閉院します

令和2年3月31日をもって本町診療所は閉院することとなりました。12月ですべての診療を終了します。医療センターの前身である市民病院の移転に伴う医療空白地を埋めるために平成6年に開院しましたが、医療機関の充足からその役目を終えることとなりました。

長い間、ありがとうございました。

地域医療の 仕組み



バス案内 (国際興業バス)

川口駅東口(8番)発

川口市立医療センター経由 新井宿駅行

西川口駅東口(1番)発

川口市立医療センター経由 新井宿駅行

蕨駅東口(1番)発

川口市立医療センター経由 新井宿駅行

赤羽駅東口(6番)発

新井宿駅経由 川口市立医療センター行

循環バス (川口市コミュニティバス)

みんななかまバス

埼玉高速鉄道をご利用の方は

埼玉高速鉄道 新井宿駅から徒歩10分

駐車場のご案内

駐車料金 4時間まで200円(その後1時間ごとに100円)

総合受付の「5」会計受付にてパーキングカードを販売しております。
(1,000円券・3,000円券)

駐車台数 約600台収容



ホームページ

発行責任者 川口市立医療センター 大塚 正彦

編集 広報委員会

〒333-0833 川口市西新井宿180 ☎048-287-2525(代表)